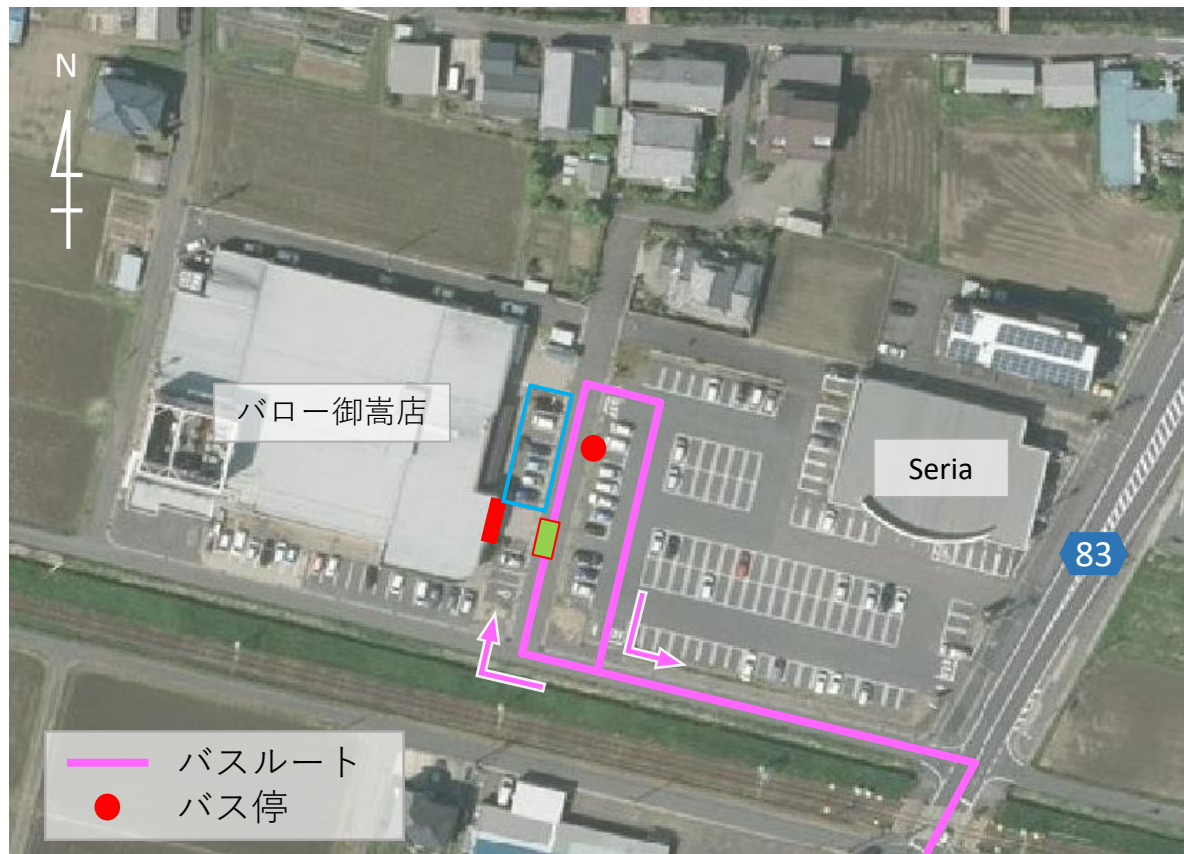
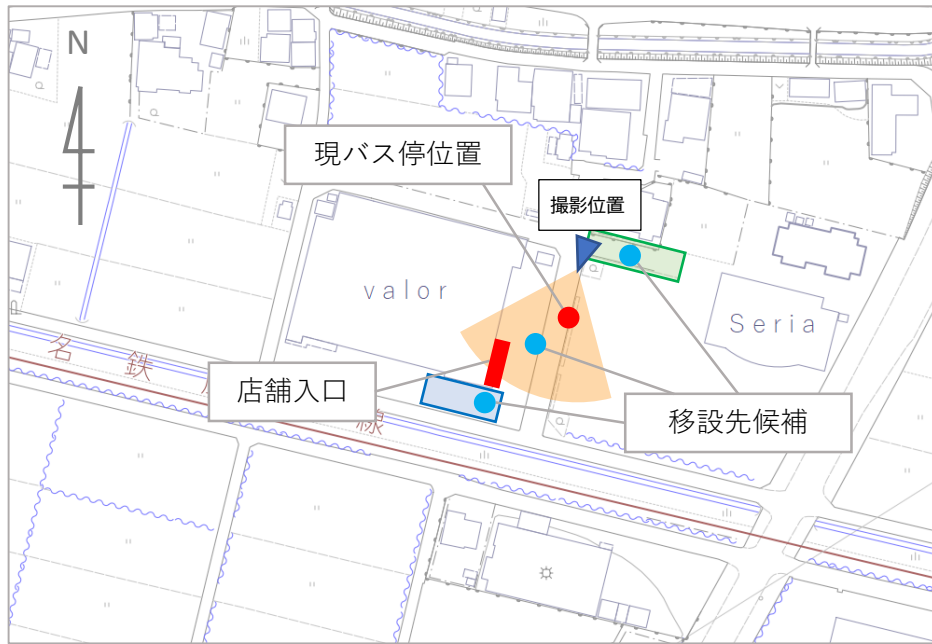


先日、利用者の方から「本バス停にて待っていたところ、乗車させてもらえずそのままバスが通り過ぎて行ってしまった」という苦情を頂いたため、東濃鉄道様とバス停の現場にてどのような経緯でそのようなことが起こったのか、検証しました。



- 店舗入り口が ■ 箇所であるため、利用者の大部分は雨風や日差しを避けるためこの周辺でバスを待っている。
- バスの運転手の方々はこのことを把握しており、フリー乗降システムの利用として □ 箇所にて停車し、乗降の対応をし、その後バス停にて待機している利用者が確認できればそこでも対応を行っている。
- 今回お電話いただいた方は、この事情をご存じでなかったようで、店舗入り口にて待機し、バスが来るのを確認してバス停の位置に移動しようとした。
- その時、□ 箇所（おもいやり駐車場）が満車であったことから、バス停に移動しようとしている利用者を物理的に視認できなかった（ドライブレコーダーにも写っていなかった）。
- よって、バス停前に待機している人も利用しようとしている人もいないと判断し、そのまま出発した。

バス停「バロー御嵩店」の今後について



警察の方とバス停の移設について現場検証をしていただいたところ、次のことについてご意見をいただきました。

- ・現在のバス停の位置は右側にあるため、左側にすることが望ましい。
- ・店舗入り口前に停車することは店舗利用客の往来が多いことから安全上望ましくない。
- ・安全上、道交法上の観点からみると、駐車場にて停車、乗降していただくことが最も望ましい。
- ・もしくは、□箇所、Seria西側の道路はかなり空間があり、立地上交通が多くないように見受けられるため、安全上、道交法上の観点からみるとここに移設することも検討していただきたい。
- ・利便性を重視するのであれば、店舗真横の思いやり駐車場などをバスの停車エリアとして使わせてもらえるようにすると安全上、望ましい。当然、バロー御嵩店様のご承諾をいただく必要がある。

以上のことを踏まえ、ふれあいバス等公共交通研究会にて本案件について次のようなご意見をいただきました。

- ・□箇所、店舗南側の駐車場を利用させていただくというのも乗降の利便性からみると有効ではないか。

本案件については、今後バロー御嵩店様とも相談させていただき、移設について検討していきます。